学校通信

子午線

令和４年１月６日
１月号
三木市立三木小学校

まさしく「十年一昔」

学校長　小紫　達矢

明けましておめでとうございます。今年一年が児童の皆さん、保護者の皆様、地域の皆様にとって素晴らしい年になりますようにお祈り申し上げます。今年のお正月はご家族でどのように過ごされたでしょうか？ ニュースによると昨年度と比べ、感染者が落ち着いているため、帰省などをされた方が多かったようです。しかし、新型コロナウイルスの新しい株の報道が多くなされ、各ご家庭ではいろいろと工夫されながら、お過ごしになられたこと思います。感染症の波が抑えられ、３学期の学校生活や行事が無事に開催できますことを願っています。

昨年の子午線１月号のタイトルは「今年はＧＩＧＡスクール元年」でした。日本全国の小中学生全員にタブレット端末を配布し、授業や家庭学習の中で活用していくことが全国ではじまりました。三木市でも昨年度の３学期に全児童・生徒にタブレット端末が配布され、各自でいろいろな調べ物をしたり、自分のペースでドリル学習を進めたり、オンラインでの交流学習を行ったりすることができるようになりました。もちろん学年によりできることや取組の頻度・レベルは違っていますが、子どもたちは、それぞれの学年に応じて巧みにタブレット端末を活用している様子には驚かされます。

さて、「十年一昔」という言葉があります。「世の中は移り変わりが激しく、10 年もたつともう昔のこととなってしまう。（小学館 大辞泉）」という意味ですが、三木市の学校の 10 年はこの言葉通りの大きな変化がありました。

10 年前と言えば、通知表「あゆみ」が判子と手書きからパソコン印刷に変わり始めた頃でした。その頃は印刷をパソコンからしていても、印刷前の成績処理は教師がそれぞれ計算して、評定（3・2・1）や評価（◎・○・△）を出していました。その後、成績を処理できるソフトが市全体で導入され、「あゆみ」を現在のようにお渡しすることになりました。今は各教室にある大型モニターやプロジェクターは、大変高価でしたので（私が初めて学校で使った機種は 80 万円くらいでした）学校に２～3 台しかなく、交代して使用していました。児童用パソコンも最初は１２台～13 台で２～3 人で一緒に使用していました。その後、各校に 40 台が配備されましたが、複数のクラスで使用することはできませんでした。

この様に見てくると本当にそして便利に、子どもたちの教育環境は良くなったと思います。しかし、この教育環境を宝の持ち腐れにしてはいけません。学校では職員のタブレット活用の方法を広げるため、先日も研修会を行いました。今後も子どもたちによりよい学習環境を提供できるよう活用方法の研鑽をして参ります。

保護者の皆様には、ご家庭でネットを通じた学習等にご協力を頂くことになると思います。引き続き、温かいご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。